

1学年だよりvol.5 R7(2025)/12/22

【進路説明会】

10月9日(木)に(株)ベネッセコーポレーション関東支社の谷口尚大様より、進路説明会が行われました。

内容は次の3点でした。

- ・7月に行われたスタディー・サポートの結果から見る学習状況
- ・進路実現のために1年次からしておきたいこと
- ・大学入試制度の概要

6時間目の生徒対象の説明会では、まず早めに目標設定できた方が進路実現できる確率が高まるという話がありました。大学入試を本格的に考えて取り組み始めた時期が高2、3学期では大学合格率が65%、高3、1学期では37%と下がるのに対し、高1、2学期では97%と高く、いかに早めに目標設定して取り組み始めることが大事であるかという話がありました。

また、大学入試問題出題レベルの分析結果によると、基礎レベルが70%、応用レベルが20%、難問が10%で、差がつきやすい基礎・応用レベルが90%であるため、受験勉強は基礎問題の徹底を心がけることが大事であり、まずは教科書例題レベルを確実に押さえることという話がありました。

そして、何とんでも大事なことは復習、振り返りであり、復習すると半年後に差がつく！という話がありました。高校1年生進研模試偏差値は、模試後に復習した生徒では、偏差値50が半年後偏差値55になるのに対し、復習しなかった生徒は、半年後の偏差値が50のままかわらず、その差が5になるということです。

さらに復習の際のポイントとして、「わかる」を「できる」に変えることが大事という話がありました。解答解説を見て解き直しをして、類題演習で模試とは少し違う問題に触れることが理解の定着につながるという話がありました。

最後に、高校進学後、学力伸長した生徒は高校1年生秋で学習量を大きく伸ばしているという話がありました。平日で、成績上昇者は約80分、休日で約120分学習しています。

その後の保護者対象の説明会には29名の保護者の方が参加されました。そちらの説明

では、「お子様の伴走者であるために」と題して、大学入試制度の概要、親子のコミュニケーションの成功例・失敗例などの説明がありました。

11日(木)に、11月進研模試の結果を返却しました。一緒に「ランク付け答案」を配付しています。志望校別にランクが提示され、「自分にとって解けているべき問題が正解できているか？」という振り返りができます。全て復習しようではなく、メリハリある復習につなげることができます。解答解説を見て1ランク上の問題まで解き直しをしてみましょう。また、マナビジョンで「今、特に復習してほしい問題」がピックアップされています。自分の弱点にあった復習問題で学力定着を目指して下さい。



【総合的な探究の時間 「常盤学」(プロフェッショナルに学ぶ)】

10月14日(火)3限に常盤学の「プロフェッショナルに学ぶ」が行われ、9社の方から来校くださいました。各班の探究の進捗を見ていただき、今後の探究の方向性についてアドバイスをいただきました。

生徒は、8月4日の企業訪問で企業側から探究の課題を与えられました。そしてその後、今回までに課題の原因について情報の収集・整理を行ってきました。順調に進んでいる班もあれば、行き詰まっている班など様々でしたが、プロフェッショナルの課題の見方・考え方に触れ、課題の原因の分析の仕方について理解を深めている様子でした。